

長岡京市

ちょうほうじしんいけ 長法寺新池 ため池浸水想定区域図

【浸水想定区域図作成の前提条件】

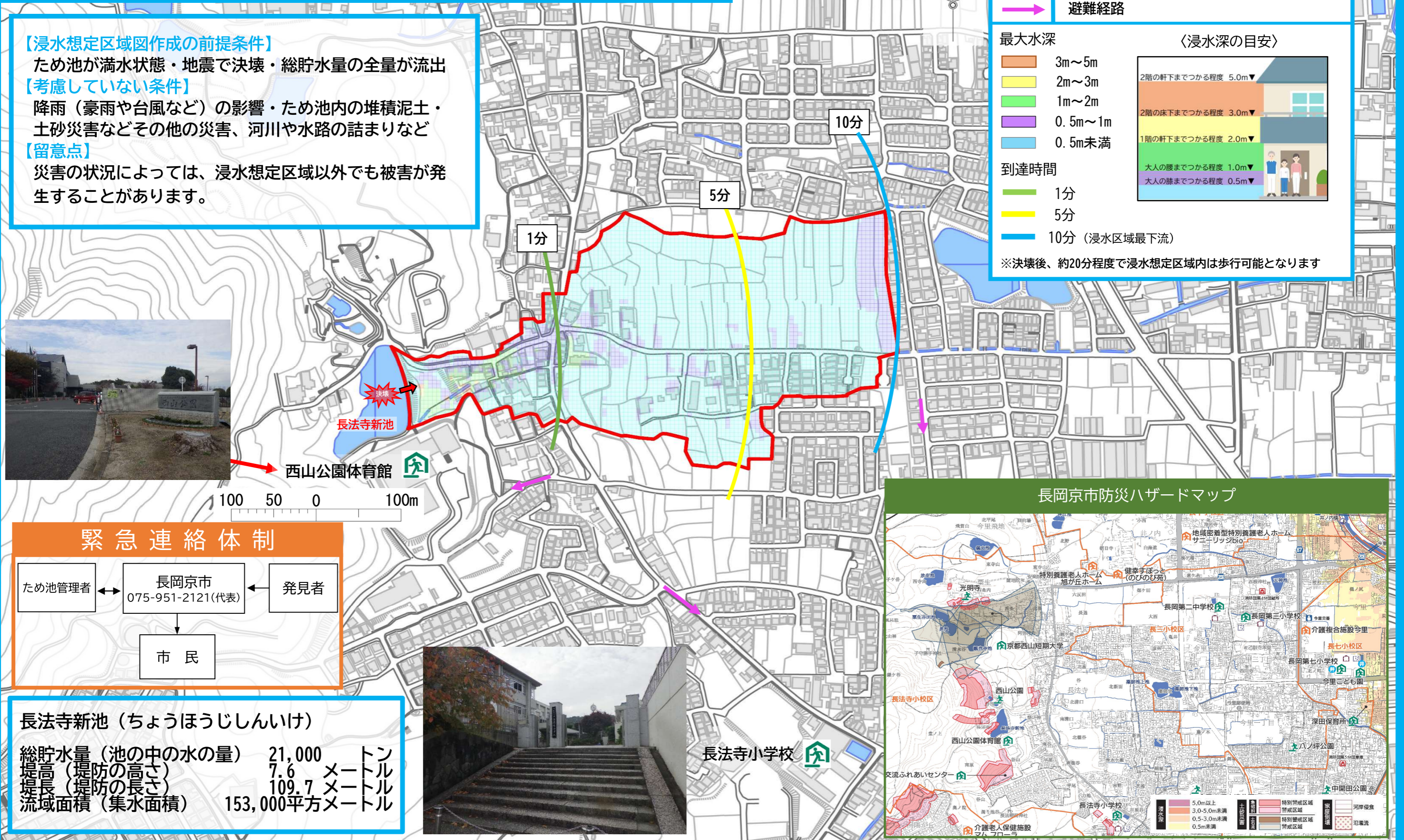
ため池が満水状態・地震で決壊・総貯水量の全量が流出

【考慮していない条件】

降雨（豪雨や台風など）の影響・ため池内の堆積泥土・土砂災害などその他の災害、河川や水路の詰まりなど

【留意点】

災害の状況によっては、浸水想定区域以外でも被害が発生することがあります。



凡例

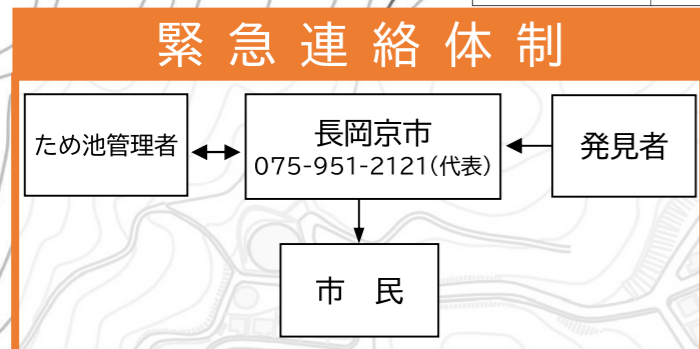
	指定緊急避難場所
	浸水想定区域
	避難経路

最大水深	到達時間
	3m～5m
	2m～3m
	1m～2m
	0.5m～1m
	0.5m未満
	1分
	5分
	10分（浸水区域最下流）

〈浸水深の目安〉

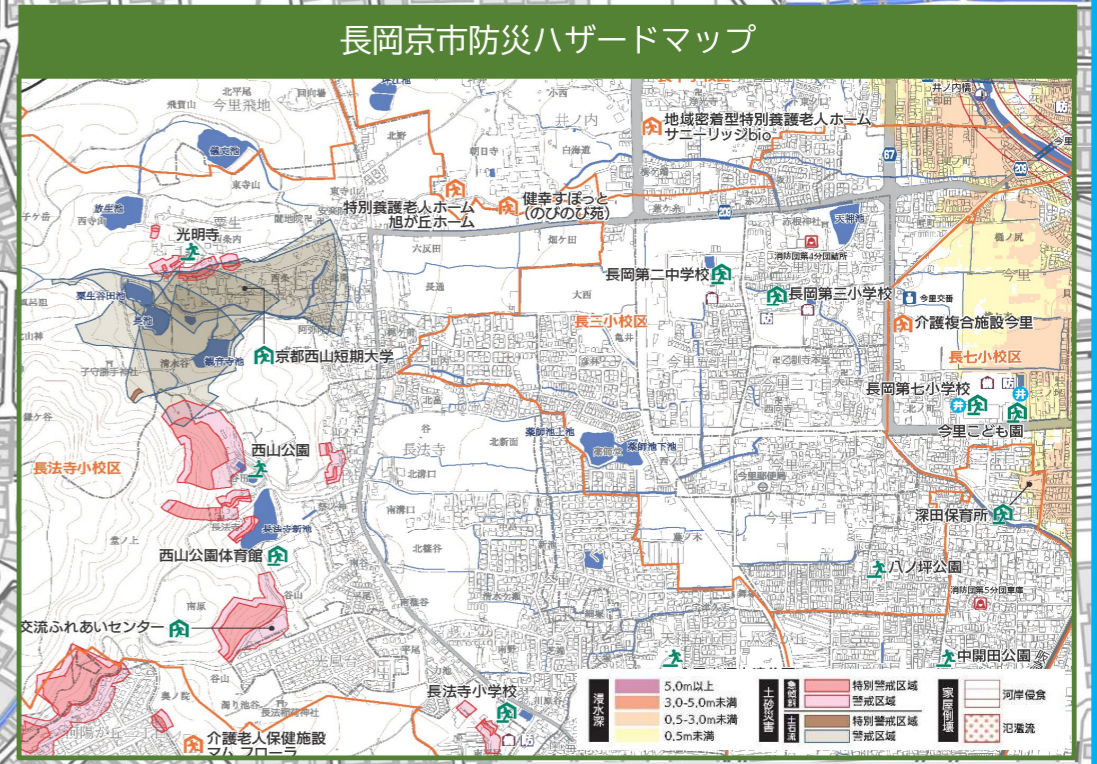
	2階の軒下までつかる程度 5.0m▼
	2階の床下までつかる程度 3.0m▼
	1階の軒下までつかる程度 2.0m▼
	大人の腰までつかる程度 1.0m▼
	大人の膝までつかる程度 0.5m▼

※決壊後、約20分程度で浸水想定区域内は歩行可能となります



長法寺新池（ちょうほうじしんいけ）

総貯水量（池の中の水の量）	21,000	トン
堤高（堤防の高さ）	7.6	メートル
堤長（堤防の長さ）	109.7	メートル
流域面積（集水面積）	153,000	平方メートル



長岡京市 ちょうほうじしんいけ 長法寺新池 災害に対する備えと心得

この「災害に対する備えと心得」は、万が一堤防が決壊した場合に想定される浸水状況や避難に役立つ情報をまとめたものです。

迅速かつ安全に避難するために、「災害に対する備えと心得」の内容を確認して、日ごろからの備えに役立ててください。



長法寺新池 全景



長法寺新池 下流風景

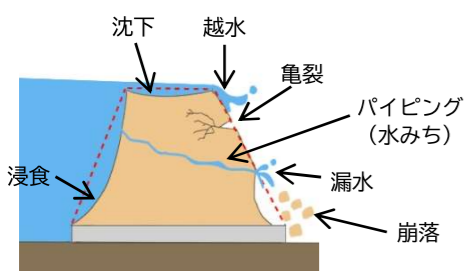
1 ため池の必要性について

- ・ため池の水は、野菜づくり、米づくりにとても大切です。
- ・ため池の水は、防火用水としての役割があります。
- ・ため池は、貯水機能があり大雨時等、一時的に貯める役割があります。
- ・ため池は、地域にとってとても大切です。



2 ため池の決壊について

大雨や地震の発生によって、ため池の堤防が損傷を受け、決壊する場合があります。



こんな現象がみられたら注意！

- ・堤防に変形、亀裂、沈下が見られる。
- ・水が堤防を越えてあふれ出している。
- ・堤防から土が混ざった漏水が見られる。

上記の状態がみられた場合は、速やかに浸水区域から避難してください。

3 ため池浸水想定区域図の活用方法

① 想定される浸水想定区域や深さなどをチェックしましょう。

- 浸水深さや氾濫の到達時間を確認しましょう。
- 災害時に起こる様々な事態を想定することが大切です。



② 避難場所を確認しておきましょう。

- 避難場所を確認し、実際に歩いて移動時間を確認しておきましょう。
- 避難途中で浸水した場合に緊急避難できる高所を探しておきましょう。



③ 家族や地域で話し合いましょう。

- 災害時に協力し合えるよう、家族や地域で話し合いましょう。
- 地域の防災訓練で活用しましょう。



④ 市が公表している防災ハザードマップもご覧ください。

- 市では洪水、土砂災害、地震のハザードマップをホームページで公開しています。このマップと併せて活用し、災害に備えましょう。



4 防災情報の入手

大雨や地震時には、テレビやインターネット等を通じて、気象庁等が発表する防災情報を入手してください。以下のQRコードを携帯電話で読み込むと、自動で開くことができます。

気象庁

防災情報



京都府

京都府土砂災害警戒情報



長岡京市

災害情報
避難所
防災ハザードマップ



防災・防犯情報メール配信システム

気象・防災・防犯に関する情報や市からの避難情報などのメール配信



5 避難時の心得

裸足や長靴ではなく、ひもで締められる運動靴を履きましょう。また、ヘルメットか防災頭巾をかぶり、手袋もつけましょう。



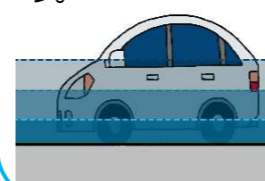
災害時に屋外にいる場合や浸水が迫ってきている場合、ため池付近にいる場合は、速やかに浸水想定区域外又は高い所へ避難してください。



必要最低限の荷物を持ち、2人以上で避難しましょう。また、お年寄りや子どもへの声かけ、手助けを行い、地域住民で助け合って避難してください。

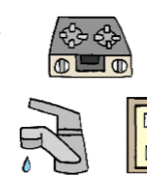


徒歩で避難をしましょう。車やバイクでの避難はやめましょう。



水深90cm:車が押しはじめる
水深80cm:水圧でドアが開かなくなる
水深90cm:エンジン停止の可能性

避難の前にガスの元栓、電気器具の電源、戸締まり等を確認しましょう。



マンホールや排水溝、水たまりなどに気をつけ、杖や棒等を使って足下を確認しましょう。

